

5 お役立ちアイテム・プログラムのアレンジ技法

①「な～んだ？袋(ボックス)」のアレンジ

保育の中で五感を意識的に使うこと、特に視覚以外の感覚を意識することは、その後の感受性・情緒性の発育に大きな役割を果たします。ここで紹介する「な～んだ？袋(ボックス)」は、簡単に五感を意識して使うことのできるアイテムです。

自然物を袋(ボックス)の中に入れて、さわったり、においをかいだり、音を聴いたりして、その自然物が何かを考え、同じものを探してくるという簡単でドキドキするあそびです。

ここではいろいろなアイテムを使ってあそんでみましょう。

→田5「おってさわってなんでしよう?!」参照

1 不透明な布袋

ふれる系

やわらかい布に木の枝や石、葉っぱ、木の実など、触った感覚が違うものをいれてみましょう。水気の多いもの(熟した果物、濡れた葉っぱなど)は袋に浸みるので避けたほうがよいでしょう。



2 フィルムケース

みる系

半透明のケースを使い、中に入れたものをさがしてみましょう。(ドングリや小石など)

におう系

香りの強い葉っぱを入れて、においを手掛かりにさがしましょう。(ヨモギやシキミなど)



3 お茶(のり)の缶

きく系

缶と自然物があたる音でさがしてみましょう。石と木の実は音が違って聞こえます。



粉ミルク缶などに・色画用紙を巻いたもの口の部分はカラーガムテープを使い、手が入るように十字に切れ目を入れます。



4 牛乳パック

きく系

缶とは違った音がします。

ふれる系

幼児にはちょうど良い大きさ・軽さでお手軽なアイテムです。



・牛乳パックに色画用紙を巻いたもの

● 「オータムビンゴ」のアレンジ～自然物ビンゴ～

自然の中ではたくさんの不思議が発見できます。保育の中で、何かを見つける力は、多くの物事に興味関心をいただき、その後の洞察力・判断力にもつながります。ここで紹介するあそびは、ビンゴの要素と自然物を発見する要素を組み合わせたものです。ビンゴというと、どうしてもマスに書いてあるものをさがして持ってくるというように想像してしまいがちですが、持ってくれば自然を損ないそうな場合は、見つけたものの絵を描いたり、見つかった場所に案内してもらったりしても楽しく遊べます。ビンゴシートは9マスか4マスが適当でしょう。テーマ別にいろいろなアレンジを加えてみましょう。 → (60) 施設-3「オータムビンゴ」参照

①ツルツルしたはっぱ	④ほそながいはっぱ	⑦ギザギザしたはっぱ
②においのするはっぱ	⑤だいすきな(ドキドキする)はっぱ	⑧どうぶつのかたちはっぱ
③ザラザラしたはっぱ	⑥あながあいているはっぱ	⑨まるいはっぱ

1 かんじてビンゴ

マスに「つるつる」や「ねばねば」など触って感じる言葉を入れてみます。

子どもによって1つの言葉にもいろいろな感じ方がることが理解できますし、子どもたち同士も確かめ合うことができます。中央のマスには「ドキドキ」みたいな言葉を入れてもいいでしょう。

2 葉っぱでビンゴ

「穴の開いたはっぱ」や「黄色い葉っぱ」「ギザギザの葉っぱ」「音がなる葉っぱ」などさまざまな感覚をつかったビンゴが楽しめます。さまざまな葉っぱが見つかることで、葉っぱ1枚にも尊い命があることを知り、その葉っぱが自然の循環の中で果たす役割に気づきます。



3 お名前ビンゴ

石・枝・葉っぱ・土・ミミズ・木の実(鳥や小動物の食べ物や食べあと)など、名前でビンゴをすると、その名前の自然物の特長が理解できます。慣れてくれば「マツの葉っぱ」や「サクラの皮」など園周辺にある植物の名前をマスに入れてみるのも身近な自然に目を向けることができます。



4 自然物イエス・ノービンゴ

自然物でないものもマスに入れてみます。缶やビンなど自然の中に捨てられているゴミについて、自然物と比較し、考えるきっかけにします。